

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援HiKaRi		
○保護者評価実施期間	令和7年12月16日		～ 令和8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 (28名で兄弟1組のため)	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和7年12月12日		～ 令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団プログラムと個別プログラムの両方を実施している。	個別プログラムでは概念の習得、集団プログラムでは他児との関わりにおける人間関係・社会性の醸成をそれぞれ重点目標としている。	個別の運動プログラムの導入も検討。
2	運動・スポーツの指導を得意とする指導員が多く、集団プログラムでは、多様な内容を提供できている。	器械体操の専門指導員のプログラムを週2回に増設した。	ミニトランポリンやラダートレーニングなどの用具を計画的に充実させる。
3	SNSを使用した保護者との連絡、HPへのブログ掲載により活動状況の報告を実施している。	月1回発行のお便りで、LINE公式アカウントには保護者全員が登録していただき、活用を進めている。	家族支援のためのコンテンツの充実を目指す。
4	グループ内に放課後等デイサービス事業所もあることで、小学校就学後の移行をスムーズに行うことができる。	児童発達支援から5名がグループ内の放課後等デイサービスで療育を継続している。	次年度も7名が希望しているので、情報の申し送りなど確実に実施する。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流や兄弟向けイベントの機会がない。	開設以降、人的な体制が安定しなかったこともあり、着手が困難であった。	夏休みなどの長期休業や祝日を活用した保護者の情報交換を検討する
2	保育所、幼稚園など関係機関との情報交流が少ない。	独自性を重視する傾向にあったため、積極的に情報交換を行う意識が定着していなかった。	相談支援員主催の担当者会などには積極的に参加している。利用児童に対し必要に応じて、共通した対応ができるように通園先との情報交換を強化する。
3	人的体制が整っているとは言えず、後進の育成が進んでいない。	育児休業中のスタッフの役割が十分にカバーできていない。SNS担当であったため、ブログの更新など遅れ気味となっている。	グループ本部との協働によって、この期間にサービス低下が発生しないよう努力する。